

令和5年度第2回 浦安市児童センター運営懇談会

- 会議資料 別紙参照
- 開催日時 令和6年1月25日(木) 午後6時～7時
- 開催場所 東野児童センター 視聴覚室
- 出席者
 - (委員) 瀬尾会長(浦安市小中学校校長会)
 - 田中委員(民間有識者 よみきかせサークル ルフラン)
 - 金子委員(民間有識者 浦安市母子保健推進員)
 - 濱口委員(浦安市民生委員児童委員協議会)
 - 小神委員(浦安市民生委員児童委員協議会)
 - 坂本委員(浦安市青少年相談員連絡協議会)
 - 飯塚委員(健康こども部青少年課長)

 - (事務局) 健康こども部児童センター 斉藤所長
 - 東野児童センター 井田・太田・片倉
 - 高洲児童センター 杉町・後藤・内田・本多・宇田川

- 開式
 - 会長挨拶・自己紹介(瀬尾会長)
 - 議事
 - (1) 令和5年度 前期事業報告
 - (2) 令和5年度 後期事業計画
 - (3) その他
- 閉会

- 開式 事務局より
本日は委員 12 名のうち、7 名が出席。設置要綱第 7 条第 2 項により会議は成立する。
- 当懇談会の傍聴希望者 1 名
- 会長挨拶
- 議事

(1) 令和 5 年度 前期事業報告について

東野児童センター

ここからは動画・写真をご覧いただきながら主な事業報告をする。

こども健全育成事業について (P 7、8)

・糸と針を使って

夏休み期間中に実施し「猫クリップ」を製作した。

4 年生から 6 年生の児童 11 名が参加し、補助として職員 4 名が対応。

手縫いで作品を製作する楽しさや喜び、そして達成感を十分に味わっていた。

・キッズスタッフ

キッズスタッフは「共同作業を通じ、他校間、異学年との交流をもち、協力して行うことの楽しさや達成感を味わう」ことを目的としていて、現在キッズスタッフは 3 年生から 6 年生までの 23 名がいる。今年度はハロウィンイベントの企画から携わり、キッズスタッフ自身からの発案により、迷路とお化け屋敷の製作と決めて、8 月頃から作り始め、大変クオリティの高い物が完成した。イベント当日もキッズスタッフが積極的に参加し、大変好評だった。イベント終了後キッズスタッフからは、「疲れたけど楽しかった。来年も参加したい」という声が聞かれた。

・新春おめでとうスペシャル

東野児童センターでは初の試みで、令和 6 年 1 月 14 日に開催。

福笑い、すごろく、百人一首、凧の製作、コマ回し大会、羽根つき等々を行い、自分で作った凧を児童センターの屋上で揚げたり、地域の方に依頼し、獅子舞を披露していただいた。また、みんながそれぞれ得意なことを披露する「君こそスターだ」を行い、たくさん子ども達が参加し、大変楽しく子どもたちにとっても自信につながる素晴らしい経験になったと思う。

子育て支援事業について (P 10、11)

記載のとおり。

地域貢献事業について (P 12)

記載のとおり。

高洲児童センター

こども健全育成事業について（P16、17）

今年度は、コロナ禍前の賑やかさが戻るように各種事業を実施した。

子ども達のアンケートで要望が多かった、鬼ごっこやドッジボールを高洲公民館の運動室を借りて行い、思いっきり動き回った。

・今月の工作

ペットボトル水族館やストローを使った飾りの他、多くの工作を行った。

・君もチャレンジ

風船を使ったフリースロー大会をはじめ、未就学児から中学生まで楽しめる事業を開催した。

・ギネス世界記録に挑戦

「ピンポンボールパス」という種目で、全国9位になり、参加した児童に賞状を授与した。

講師を招いて開催した各種事業は、観客参加型朗読人形劇、空気の科学あそび、マジックショー、リフレッシュヨガ、クリスマス親子コンサートなど、キッズスタッフをはじめ参加した子どもや親子を巻き込んでの楽しい事業になった。

子育て支援事業について（P18）

・赤ちゃんサロン

歩き始めるまでのお子さんと保護者、妊娠している方とそのパートナーを対象として、週に1回開催している。

今年度の初めに参加した親子は、お子さんが歩けるようになったので、他の子育て事業に参加するようになり、秋からの赤ちゃんサロンへの参加者が少しずつ変わってきた。

開催時間を午前10時15分から11時30分までと長くし、わらべ歌やふれあい遊びの時間を2回とっているの、遅く来館した方からは「2回目のふれあい遊びに間に合って良かった」という声が聞かれた。

母親同士の交流の場となり、楽しそうに会話をしている姿が見られる。

職員は、母親が安心して子育てができるよう、母親の言葉に耳を傾けアドバイスをし、また月に1回助産師相談を行い、様々な相談を受けている。

・よちよちタイム

歩き始めから2歳程度のお子さんと保護者を対象として週に1回開催し、親子で遊べる場と保護者の交流の場となっており、仲良くなった親子が一緒に帰る様子も見受けられる。

「一緒に遊ぼうタイム」は、お絵かきや紙で遊んだり、すずらんテープを使った工作などを行い、とても楽しんでもらえている。

栄養士、保健師、歯科衛生士に相談ができる機会を年6回設けていて、様々な悩みを気軽に相談できる場となっている。

・プレスクール「にこにこ」

10月より2歳・3歳を対象に「集団に慣れる、友達と一緒に遊ぶ」ことを目的とした、登録制のプレスクール「にこにこ」の第1期がスタートした。

2歳・3歳の幼児は、月齢の差が大きいこともあり、無理せず楽しく活動できるように、リズム遊びやサーキット、季節の行事の製作、また高洲中央公園へ遠足に行った。回を重ねる中で、子ども同士で声をかけたり、助け合う姿も少しずつ見受けられるようになり楽しそうに遊んでいた。1月から「にこにこ」の第2期がスタートし、みんな笑顔で遊んでいる。今後も、子どものペースに合わせた遊びを提供し、親子で楽しめる場にしていきたい。

地域貢献事業について（P19）

・こんぺいとうサロン

毎週火・木・金に開催し、毎回楽しい内容でたくさんの親子が参加しており、「親子の居場所」になっている。

・おもちゃの病院

高洲児童センターでは今年度より始めた事業で、壊れてしまった大切なおもちゃが直ってきた時の子どもの笑顔はとても嬉しそうだった。

・マミー保育園

子ども達が勤労感謝の日に、児童センター職員に「いつもありがとう」と可愛い飾り物を作り、持ってきてくれた。

◎質疑応答

会長：事業報告について質問はないか。

委員：子育て支援事業の各種サロンは、子どもの月齢に合わせて、行く場所がいろいろ選べるので良いと思う。比較的遠くの地域からも、児童センターに行くという話を聞くので、子育て中のお母さん達にも浸透していることを改めて感じる。

会長：母親が行く場所を選べるというのは、とても良いことだと思う。

委員：母子保健推進員として赤ちゃんのいる家庭を訪問する際、参加できるサロン等のチラシ等を配付しているが、最近は外国の方が多く住んでおり、訪問してもチラシや資料等が読めず、話しても上手く伝わらない状況である。まず母親同士が友達になり、そこから情報を伝えられたら良いと思っているが、実際外国の方の利用はあるのか。

所長：東野児童センターは日本語がわからない外国の方の利用はない。

職員：高洲児童センターは外国の方の利用はあるが、日本語がわかる方が多い。

所長：そういう方を通して知り合いの方へ児童センターが利用できることを広めていきたい。

委員：障がいのある子どもの遊び場として何があるか。また、いろいろな障がいがある中で

対応は難しいと思うが、親子一緒なら参加できる事業はあるのか。

所長：障がいのあるお子さんでも介助があれば遊べる場合などは、施設内はバリアフリーで障がい者用のお手洗いもあるので、受け入れは可能であり、ご利用いただきたい。

会長：実際に障がいのある方の利用はあるか。

所長：東野児童センターでは今まで利用はない。

職員：高洲児童センターは、車椅子の小学生が卓球をやりに来ていた。

委員：企画、製作、実行するという活動をしているキッズスタッフは、事業後の振り返りはあるのか。

職員：イベント終了の翌月の活動日に、参加した感想や次は何をやりたいか等を話す振り返りを行い、次回に繋げられるようにしている。

委員：一般の市民が手伝いたい時はどのようにするのか。

所長：ボランティアとして受け入れをしている。たとえば、工作の指導やイベント時の受け入れは可能で、実際に参加している方もいる。協力いただける方は受け入れている。

委員：高洲小学校では以前「何でも発表会」という子ども達が得意なことを発表する場があったが、今の子どもは忙しい子が多く、中止になってしまった。

忙しい子ども達がキッズスタッフとして、ハロウィンイベントの準備など作業する時間は十分にとれたのか、また、どういう形で実施してきたのかを知りたい。

職員：キッズスタッフは、自主的に集まり、作業するという形で、キッズスタッフの自主性に任せて行き、足りない部分は職員が補う、という形で今年を行った。

(2) 令和5年度 後期事業計画について

東野児童センター事業計画（P20）

こども健全育成事業について

- ・新春おめでとうスペシャル

事業報告の中で報告したとおり。

子育て支援事業

- ・母親ヨガ

今回は母子を別室ではなく、職員が子どもを見ながら母親はヨガを楽しんでいただく予定となっている。

その他については記載のとおり。

高洲児童センター（P21）

こども健全育成事業について

1月は「スクイーズ」を作り、顔などを書いて楽しんだ。「宝さがし」は、センター

内にちりばめられた番号の書かれた紙を探し、番号の景品をもらえるというもの。その他「バズーカ砲」や、2月は「アイロンビーズ」、3月は今キッズスタッフと準備を進めている「春まつり」、新一年生向けの「児童センター見学会」を予定している。

子育て支援事業について

1月は図書館の司書による、親子向けの絵本の読み聞かせを行った。2月は「足つぼマッサージ」、3月は「骨盤体操」や写真を撮る機会が増える時期なので「スマホ写真の撮り方講習会」を予定している。

地域貢献事業について

引き続き「こんぺいとうサロン」や、3月に「おもちゃの病院」を行う。

今後も職員の資質向上のために邁進していきたい。

◎質疑応答

会長：事業計画について質問等はないか。

委員：「新一年生向け児童センター見学会」の実施や周知方法はどのようにするのか。

職員：昨年度の状況を踏まえ、今後、職員間で周知内容や方法を検討していく。

所長：市内全域の幼稚園にチラシを配布し、大きくピーアールしていく。

会長：市内公立の幼稚園、保育園、こども園は周知するが、私立の場合はどうか。

所長：私立の場合は、連絡を入れて了解がいただければ周知していく。

委員：市外に住んでいて、帰省などで一時的に浦安にいる方は事業に参加できるのか。

所長：入館カードは作れないが、当日来館していただければ、事業にも参加可能である。

委員：東野児童センターでドッジボールはどこでやっているのか。

所長：遊戯室でやっているが、公民館などの運動室のように広い場所ではないので、児童センタールールを作り行っている。

委員：ドッジボール以外にも軽スポーツなどもやってはどうか。

所長：遊戯室では、現在も夏には水鉄砲をはじめ季節的なものを行っているが、今後も色々なものを行い、幅広く地域への周知を行っていく。

委員：2月11日（祝）に「子どもたこあげ大会」がある。児童センターの事業として、たこづくり教室を開催したらどうか。

多くの方に参加してもらえるよう、お声をかけていただけたらと思う。

会長：小学校では、1年生がたこづくりをしているので、参加に繋がっていると思われる。

議事終了

(3) その他

事務局：本年度の運営懇談会は、今回で終了となる。

来年度の運営懇談会については、1回目の開催を夏頃に予定している。

以上をもって、閉会する。

○ 閉会